

令和6年度 第2回 学校評価アンケート 結果及び改善策、方針等

下欄の 児:児童(4~6年) 保:保護者(全体) 職:教職員 色つきの項目:評価80%未満 重点的な対応が必要な項目	そう思う + 大体そう思う		今後に向けての改善策、学校としての方針等
	第1回	第2回	

I 教育課程・学習指導

児	あなたは、授業で「わかった。できた。なるほど」と思うことがありますか。	94.7%	95.0%	学校現場では、「一斉型の講義を受けるだけの受動的な学び」から「能動的で他者と協働した学び」(主体的・対話的で深い学び)への転換が図られています。坂東小学校でも「つかむ(学主課題の把握)→自分で考える(課題追求)→みんなで考える(発表・比較・検討)→まとめる(まとめ・活用問題)」という形態(坂東スタイル)での授業実践を進めてきました。教師は校内研修や自己研修により、授業力向上や授業改善に努めており、児童の授業への満足度は高まってきています。しかし、保護者は、さらなる質の向上を求めていることが分かります。学校は、学ぶことが「楽しい」と感じる児童がさらに増えるよう、魅力ある授業を今後も追求してまいりますので、保護者の皆様もお子さんと「なぜ学ぶのか」「学ぶことの大切さ」について一緒に考える機会をつくってみてください。
保	お子さんは「授業がわかりやすい」「授業が楽しい」と感じていると思いますか。	83.9%	78.2%	
職	児童の学びの実態を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に努めていますか。	94.1%	91.3%	

児	あなたは、授業でタブレットや電子黒板を使うと、勉強が分かりやすいですか。	86.5%	90.1%	一人一台端末(タブレット)が配置され、ICT機器を効果的に活用した授業実践が求められています。ICT機器を活用することで、子供たちの「意欲を高めること」「理解を高めること」「思考を深めたり広げたりすること」「表現や技能を高めること」に効果があることが分かっています。学校全体での研修を行い、「日常的な活用」を積み重ね、「効果的な活用」を目指してきたことで、少しずつ成果が表れてきました。家庭学習等にもタブレットが活用できるように、さらなる効果的な活用方法や持ち帰りのしかたについても検討していきます。
職	ICT機器を効果的に活用した授業づくりに取り組んでいますか。	83.3%	91.3%	

児	英語の授業では、歌を歌ったりクイズをしたり、英語で話したりして、授業が楽しいですか。	92.3%	84.7%	伊勢崎市の学校教育の特色の一つに「英語教育の充実」があります。市内すべての小学校が文部科学省の教育課程特例校として認められ「全学年週2時間の英語科授業」を実施しています。他市町村の小学校と比べ、英語を学ぶ時間が多く、内容も「伊勢崎市小中一貫英語力向上プログラム」に基づいて、小中9年間を見通した系統的な学習となっています。小学校段階では、英語での表現活動に親しむことに主眼が置かれ、多くの児童が楽しく、意欲的に授業へ参加しています。
職	英語の授業で、音声やリズム、文字に慣れ親しませ、伝え合う楽しさや自己表現できたという達成感や成就感を味わえるようにしていますか。	94.4%	90.9%	

職	単元末テストや各種学力検査の結果を指導に活かしていますか。	100.0%	95.7%	テストや検査の結果は「よかった」「悪かった」で終わるものではなく、それを今後の指導にどうつなげていくかが重要です。これからも、結果を多角的に分析し、よりよい授業づくりに活かしていきます。
---	-------------------------------	--------	-------	---

児	あなたは、家で進んで学習や読書をしていますか。	68.1%	61.9%	学校では、家庭学習の習慣が確立できるように、宿題などの課題を出すだけでなく、子供たちが学びの楽しさや面白さを実感できる授業づくりに努めています。しかし、回答状況を見ると、学習習慣が身に付いていない児童が多く、保護者から見てもそのように感じる人が多いようです。学校は、家庭学習が習慣化されるように、何をどのように学習すれば良いかなど、具体的な指導を行っていきます。また、学習習慣の確立のためには、ご家庭の協力や、保護者からお子さんへの働きかけが不可欠です。学習環境を整えていただくとともに、保護者の皆様もお子さんと一緒に、「なぜ学ぶのか」「学ぶことの大切さ」について一緒に考え、話し合う機会をつくってみてください。小学校段階では、保護者が子供の学習に積極的に関わることが学習意欲の向上につながりますので、ご協力をお願いします。
保	お子さんには、家庭で進んで学習や読書をする習慣が身に付いていますか。	62.7%	65.5%	
職	家庭で自主的に学習や読書をする習慣が身に付くようにする手立てを工夫していますか。	94.4%	90.9%	

II 生徒指導

児	あなたは、学校であいさつや返事をしていますか。	91.8%	93.1%	「あいさつ・返事」ができ、場をわきまえた行動が取れる子供の育成は、学校の重点目標の一つでもあります。特に「あいさつ」は、人間関係づくりの基本であると考え、学校長からも集会等の場で繰り返しその大切さを伝えてきました。また、学級委員が中心となり、毎朝の「あいさつ運動」を継続して行ってきました。あいさつができる児童は着実に増えてきていますが、保護者からは見ると、言葉遣い等も含め、物足りなさを感じてしまうようです。あいさつや返事、言葉遣い等については、ご家庭の姿勢が重要です。日常的にあいさつや返事が交わされる環境づくりに努めるとともに、思いやりをもって人と接することの大切さについて一緒に考える機会をつくってみてください。
保	お子さんは、進んであいさつをしたり、場や相手に応じた言葉をつかったりしていますか。	77.5%	77.7%	
職	あいさつや返事などの基本的な生活習慣や適切な言葉遣いが身に付くよう、適切な指導に努めていますか。	100.0%	95.7%	

児	いじめがあった時や困った時など、先生に伝えると、相談にのってくれますか。	86.5%	86.6%	本校の学校教育目標は「すすんで学び 思いやりのある たくましい子供」であり、思いやりをもって人と接することの大切さについては、学校長からも集会等の場で繰り返し伝えてきました。また、子供たちが今のような状況にあるのかに気を配り、情報共有しながら、一人一人に応じた適切な指導を心がけてきました。しかし、相談や連絡のしにくさを感じている児童や保護者が、前回と変わらず10%以上いるということを重ね受け止め、今後も対応を検討していきます。学級活動や体育の時間を使い「SOSの出し方に関する教育」を実施し、自分を大切にすること、不安や悩みがあるときのSOSの出し方について学習していきます。また、学校通信や学校Webページにて学校としての考え方や現在の状況の発信を続け、学校への理解を深めていただき、保護者の皆様からも安心して相談してもらえる学校づくりを進めていきます。
保	学校は、子供のことで連絡や相談がしやすいですか。	88.1%	87.0%	
職	児童の悩みや問題などの実態把握に努めたり、情報を共有したりして、指導に生かしていますか。	100.0%	95.7%	

児	あなたは、友達となかよくでき、学校生活を楽しく送れていますか。	93.7%	92.1%	本校は、外国籍、または外国につながるのある子供たちが多く在籍し、100名以上、全体の約25%を占めています。そういった子供たちも集団の中に全く垣根なく溶け込んで、本当に楽しく学校生活を送ることができました。こういった環境だからこそ、多様性の受容、共生が自然にできており、優しい気持ちをもった子供たちが育っているのだと感じています。そんな中でも、集団に溶け込めない子供もいるようなので、それぞれの特性を把握し、自分の居場所、一人一役、活躍する場面がある学級・学年・学校づくりに努めています。さらには、「道徳」の指導にも力を入れ、礼儀・友情・公正・公平などの気持ちを育てていき、差別や偏見、いじめの根絶を目指していきます。
保	お子さんは、友達となかよくでき、学校生活を楽しく送っていますか。	91.1%	89.1%	
職	教師と児童、児童間での好ましい人間関係づくりに努めていますか。	100.0%	95.7%	

### Ⅲ キャリア教育

児	あなたは、自分のめあてや将来の夢について考えていますか。	79.7%	82.7%	キャリア教育とは、子供・若者がキャリアを形成していくために必要な能力や態度の育成を目標とする教育的働きかけです。小学校段階から、自分がどのように生きていきたいのかをイメージし、そこから自分が今すべきことを考え、実行できるようにしていくことが大切です。自分が自分として生きるために「学び続けたい」「働き続けたい」と強く願い、それを実現させていく姿がキャリア教育の目指す子供・若者の姿です。学校でも働きかけを行っていますが、保護者の立場から「働くことの意義」や「目標や目的をもって生きることの大切さ」を伝えたり、子供と一緒に考えたりする機会をつくってみてください。
保	学校は、様々な学習や活動を通して、お子さんがめあてをもったり、将来の夢について考えたりできるように指導していますか。	83.4%	81.5%	

児	あなたは、自分のめあてや将来の夢、卒業後の進路について、家族と話すことがありますか。	70.0%	65.3%	本校では、「キャリア・パスポート」を活用して、自分自身の特徴を把握したり、将来の生き方を考えさせたりする活動に取り組んできました。「キャリア・パスポート」とは、小学校から高校までのキャリア教育に関する活動について、自分自身の変容や成長を自己評価できるように蓄積していく記録（ポートフォリオ）のことです。キャリア・パスポートの活用は、学校だけで完結する教育活動ではありません。定期的に家庭に戻っていきますので、内容を確認していただき、お子さんと話し合う機会をつくってみてください。小学校段階では、子供から将来の夢や卒業後の進路について話すのは難しいので、保護者からきっかけづくりをしていただくとありがたいです。その中で、保護者だからこそかけられる言葉で子供の考えを認め、励ましてあげることで、自己肯定感や前向きな気持ちが育まれますので、ご協力をお願いします。
保	お子さんのめあてや将来の夢について、家族で話し合うことがありますか。	79.1%	80.3%	
職	児童が自らのめあてや将来の夢について考えられるよう、家庭にも働きかけながら、キャリア教育の実践に取り組んでいますか。	89.5%	82.6%	

### Ⅳ 健康な体づくり・学校安全・危機管理

児	あなたは、感染症や熱中症に気を付けながら、休み時間に運動や外遊びをしていますか。	72.0%	72.3%	学校が最も大切にしなければならないことの一つに「子供の命と、安全安心を守り通すこと」が挙げられます。そのため、学校施設の安全確保、感染症や熱中症等への対応については、十分に配慮をしながら、運動に親しむ機会を保証したり、体力をを向上させる取り組みを行ってきました。どの学年の児童も運動や外遊びが好きなようですが、学年が上がるにつれ、休み時間に外に出る回数が減ってくる傾向があります。運動や外遊びには、体力、運動能力、積極性、コミュニケーション能力の向上など、たくさんの効果があります。引き続き安全確保に努めながら、運動や外遊びを推奨していきます。
保	学校は、感染症や熱中症の防止対策を取りながら、お子さんが運動や遊びに親しめるように、健康な体づくりに取り組んでいますか。	89.0%	90.8%	
職	感染症や熱中症の防止対策を取りながら、運動に親しむ機会を保障したり、体力を向上させる取組を行ったりしていますか。	100.0%	91.3%	

児	あなたは、好き嫌いしないで3食しっかり食べるなど、健康的な食生活を送っていますか。	84.1%	81.7%	「食育」とは、子供たちが様々な経験を通じて「食に関する正しい知識」と「よりよい食を選ぶ力」を身に付け、健全な食生活を送れるようにするための教育です。学校では、給食と関連付けながら、子供の健康状態や学力、体力の向上を図るために、食育を推進してきました。そんな中で、児童、保護者ともに20%程度が健康的な食生活を送れていないと答えていることが気になります。1日3食きちんと食事をとることができれば、生活リズムが整うだけでなく、必要な栄養素も摂取しやすくなります。特に、1日のエネルギー源である朝食を抜くと、知能面や精神面、体力面で様々な悪影響が出るのがわかっています。食育は日々の家庭生活の中で行うことが重要です。子供たちの十分な栄養と睡眠の確保など、健康的な生活が送れるよう、ご家庭での見守りをお願いします。
保	お子さんは、好き嫌いしないで3食しっかり食べるなど、健康的な食生活を送っていますか。	74.6%	80.7%	
職	学校給食と関連付けて、食に関する指導を行っていますか。	94.7%	95.7%	

児	あなたは、交通ルールにしたがって、歩いたり、自転車に乗ったりしていますか。	96.6%	96.5%	毎年、年度始めに1年生、4年生を対象とした交通安全教室を実施しています。警察署員や交通指導員、保護者の皆様にもお世話になり、1年生は安全な道路の歩き方や横断の仕方を、4年生は安全な自転車の乗り方を、実際に体験しながら学んでいます。交通事故、特に車との事故は、命を失ってしまったり、重大なケガを負い一生苦しむことになってしまったりするなど、悲しくつらいものとなる危険性が高いものです。「大切な命を守る」ということについては、学校長からも集会等の場で繰り返し伝え、安全への意識が高まるようにしてきました。2学期以降、登下校中の交通事故が一件もなく、児童の交通安全への意識が高いのは安心材料ですが、今後も事故ゼロを継続していけるよう、家庭や地域との連携を図りながら、安全教育に力を入れていきたいと考えています。
保	学校は、家庭やPTA、地域と連携して、交通安全指導や通学路の点検・パトロール、不審者対策など、お子さんの安全対策を行っていますか。	91.1%	87.0%	
職	学校安全計画や危機管理マニュアルのもとに、自然災害、交通安全、不審者対応、学校事故等の対策について、安全教育を適切に行っていますか。	100.0%	91.3%	

### Ⅴ 特別支援教育

職	特別な配慮を必要とする児童の情報を教職員間で共有するなどして、適切な指導が充実するよう努めていますか。	100.0%	95.7%	「特別な配慮を要する児童」とは、自立や集団参加に向けて個別の教育的ニーズがある子供のことを指します。これは決して特別なことではなく、一人一人にそれぞれの個性があり、学校生活の様々な場面において、学びにくさを感じることもあるのは当然のことです。学校では、「子供にとって本当に良い教育とは何か」ということを基軸とし、すべての子供たちが笑顔で学校生活が送れるように、個々に応じた指導の充実に取り組んでいます。
---	---	--------	-------	---

## VI 組織運営

職	学校経営上の課題を理解し、学校経営の方針や本年度の努力点を踏まえて、教職員が一体となって努力していますか。	89.5%	95.7%	本校の教職員は、子供たちのために、情熱と愛情をもって指導や支援にあたってくれています。それぞれの役割や分掌に責任をもって業務に取り組む姿勢は素晴らしく、保護者や地域の皆様からの信頼に値するものだと考えています。学校長としては、安心して仕事に取り組める環境づくりと、すべての教職員が同じ方向を向いて教育活動に取り組めるように経営方針や学校の課題の明確化に努めてきました。また、ゆとりをもって子供たちと接していけるようにするため、また、職員の心身の健康を守るためにも、働き方改革、業務改善が喫緊の課題であると考え、多忙の要因になっている業務内容の見直しを行ってきました。まだまだ改善の余地はありますが、2学期以降、会議で共有する内容を精選したことにより、会議の効率化を実感する職員の割合は増えています。もちろん、もっと時間をかけてでも大切にして取り組んでいきたいことについては、これまで同様しっかりと力を注いでいきますのでご安心ください。
職	主任を中心に、各学年、各教科、各分掌で、組織的・計画的な運営が図られていますか。	94.7%	95.7%	
職	設定した自己目標の達成に向け、主体的に日々の教育実践に取り組んでいますか。	100.0%	95.7%	
職	諸会議の議題の精選や進め方の工夫等により、会議の効率化が図られていますか。	78.9%	87.0%	

## VII 研修

職	各種の指導資料を活用しながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた校内研修の推進が図られていますか。	100.0%	91.3%	本校では、校内研修の主題を「考えを進んで伝え合い、深め合う児童の育成～児童のやる気を引き出す授業づくり～」として、対話活動を通して、子供たちが主体的に取り組める授業実践を目指して研修を積み重ねてきました。子供たちへの指導のために、教師も日々研鑽に努めています。学校Webページの「活動の様子」でも教職員の研修の様子を発信していますので、ぜひご覧いただき、取り組みへの理解をお願いします。
職	研修推進委員会や各部会が機能して、校内研修が計画的、効果的に進んでいますか。	100.0%	91.3%	

## VIII 家庭や地域との連携・協働

児	あなたは、学校からのお便りを家の人に渡していますか。	93.2%	88.6%	学校からの配付物については、毎日、必ずお子さんに確認をし、目を通すようにしていただくとありがたいです。各学年で発行している学年通信では、子供たちの様子、月の予定や準備が必要なもの、集金等についてお知らせしています。学校長が不定期に発行している学校通信「坂東太郎」では、学校の指導方針や子供たちに対する思いなどを、できるだけタイムリーに伝えられるようにしてきました。また、学校Webページでは、「活動の様子」（坂東小学校日記）を可能な限り毎日発信してきました。こちらでは、日常のちょっとしたシーンを切り抜いて紹介することで、学校の空気感や子供たちの様子が保護者の地域の方に少しでも伝わればと思っています。これらをすべて見ていただき、それでも「情報が伝わってこない」と感じる方がいましたら、どのような情報発信をしてほしいのか、ぜひご意見をお寄せください。
保	学校は、学校の教育活動や子供の様子を分かりやすく伝えてありますか。	91.1%	91.6%	
職	保護者や地域に対して、学校の情報発信に努めていますか。	100.0%	91.3%	

職	事故や問題が生じた際、保護者への連絡・対応を迅速かつ的確に行っていますか。	100.0%	95.7%	事故や問題が生じないのが一番ですが、保護者の方の協力が必要な事態が発生した場合には、できるだけ早く連絡を取り合い、対応するように努めています。そのため、緊急の場合には職場等へお電話させていただくことがありました。「最悪を想定して最善を尽くす」ことが重要だと考えていますので、「こんな些細なことでも…」と思うようなこともあるかもしれませんが、引き続きご理解とご協力をお願いします。
---	---------------------------------------	--------	-------	---

保	学校は、授業や行事などの充実のため、保護者や地域住民などの協力を得ようとしていますか。	90.7%	92.0%	子供たちの教育は、学校だけでなく、学校・家庭・地域社会が、それぞれ適切な役割分担を果たしつつ、相互に連携して行われることが重要です。学校の情報を適切に発信し、保護者や地域の皆様から応援してもらえる学校、積極的に協力していただける学校を目指していきます。今後もたくさんのご協力と、よりよい教育活動を行っていくためのご意見をいただけたらと思っています。
職	教育活動に保護者や地域住民等の人材の協力を得て、効果的に活用していますか。	94.7%	95.7%	

## IX 施設・設備

職	ICTを活用した授業を日常的に実施するための整備が図られていますか。	94.7%	87.0%	学校のICT環境整備が進むことで、子供たちの学びを活性化したり、個別最適化する効果があります。整備は学校だけで進められるものではありませんが、今ある機器を効果的に活用し、今まで以上に子供たちが意欲的に学習へ取り組めるようにしていきます。また、校務の情報化による効率化を図ることができれば、教職員にゆとりが生まれ、子供たちへの手厚い対応へつながると考えています。今後も、ICT環境の積極的かつ効果的な活用を目指し、校内研修や自己研修に力を入れていきます。
職	校務の効率化を図るために情報整備に努めていますか。	94.7%	91.3%	